

# 紫雲寺商工会 令和元年度 下期景況調査報告書

## 1. 調査要領

### (1) 調査対象

- ア 対象地区 紫雲寺商工会地区内小規模事業者  
イ 調査企業数 15 事業所 (うち小規模事業者数 15 事業所)  
ウ 回答企業数 15 事業所 (うち小規模事業者数 15 事業所)  
(回答率 100.0%)

### (2) 調査対象期間

- 令和元年7月～令和元年12月  
(調査時点 令和元年12月1日)

### (3) 調査方法

- 経営指導員等による巡回または窓口によるヒアリング調査

### (4) 調査対象と回答企業の構成

	調査対象		有効回答	
	企業数	構成比	企業数	構成比
製造業	1	6.7%	1	6.7%
建設業	4	26.7%	4	26.7%
卸・小売業	5	33.3%	5	33.3%
サービス業	5	33.3%	5	33.3%
合計	15	100.0%	15	100.0%

## 2. 地域内産業全体の景況概要

補助金等を活用し、消費者のニーズに沿った新たなサービスを展開したことで、売上が増加、景況が好転したといった事業所も一部で見受けられたが、仕入単価の上昇により、結果として採算が取れていないといった声も寄せられた。今後も少子高齢化・若年層の流出により地域の市場は縮小し、受注・販売は減少傾向にあることから依然として厳しい状況にあると伺えた。

### 【後継者の状況】

全体の8割が「後継者あり」と回答した。しかしながら「具体的にどう進めていけばいいのかわからない」「計画の策定までは至っていない」といった声も一部であったため、当会としても、引き続き事業承継に関するセミナーの開催や専門家派遣による事業承継計画書策定支援を展開していく必要があると伺えた。

後継者 あり	12事業所	80.0%
後継者 なし	3事業所	20.0%

### 【売上高】

前年同期比・前期比ともに「売上が増加」と回答した事業所が「減少」に比べ大きく上回った。その理由として「小規模事業者持続化補助金を活用し販路開拓に取り組んだことで、売上の増加につながった」「地域情報誌を活用した広告宣伝により新規顧客が増加した」といった声が多く寄せられた。今後の見通しとしては、少子高齢化・若年層の流出による顧客の減少により先行きに不安を抱えていることから、「減少」と回答した事業者が前期比に比べ増加した。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
増加	不変	減少	増加	不変	減少	増加	不変	減少
11	2	2	8	5	2	3	6	6

### 【採算】

前途【売上高】に比例して採算が「好転した」と回答した事業者もあったが、仕入単価（原材料の価格）が上がってきていることから、「不変・悪化」と回答した事業者が半数以上を占めた結果となっている。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化
7	4	4	6	7	2	4	6	5

### 【仕入単価】

前年同期比・前期比ともに全業種において仕入単価が上昇していると回答した事業者が多かった。小売・サービス業では「包装紙類を含む紙類の値上げ」、自動車整備関連業では「部品の単価見直しによる仕入単価の上昇」といった声が寄せられた。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
上昇	不変	低下	上昇	不変	低下	上昇	不変	低下
11	4	0	8	7	0	5	10	0

### 【販売（客）単価】

「上昇」と回答した事業者の理由としては、「前途【仕入単価】の上昇により販売価格へ転嫁した」といったものであったが、一部の事業者では価格へ転嫁できていないことから「不変」と回答した事業者もあった。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
上昇	不変	低下	上昇	不変	低下	上昇	不変	低下
8	7	0	7	8	0	3	11	1

## 【資金繰り】

前回調査同様「不変」と回答した事業者が大半を占めた。先行きが見えない経営環境の中、新たな借入は控え、手許資金で何とかまわしている事業者が多かった。

### 前年同期比

好転	不変	悪化
1	13	1

### 前期比

好転	不変	悪化
0	15	0

### 今後の見通し

好転	不変	悪化
1	11	3

## 【雇用動向】

家族のみでの経営、従業員数の現状維持により「不変」と回答した事業者が大半を占める結果となっているが、一部の事業所では、受注の増加に伴い、新たな従業員を確保したといった声も寄せられた。また、新たな問題として、人口減少や労働人口の流出によって、地域内での人材確保が困難な状況になっているといった声も寄せられた。

### 前年同期比

増加	不変	減少
1	14	0

### 前期比

増加	不変	減少
3	12	0

### 今後の見通し

増加	不変	減少
1	13	1

## 【景況判断】

小規模事業者持続化補助金を活用し、消費者のニーズに沿った新たなサービスを展開したことで、新規顧客獲得に成功、売上が増加、景況判断は「好転」と回答した事業者もあったが、今後の見通しでは、少子高齢化・若年層の流出により地域の市場は縮小傾向にあることから、「悪化」と回答した事業者が増加した。

### 前年同期比

好転	不変	悪化
5	8	2

### 前期比

好転	不変	悪化
5	7	3

### 今後の見通し

好転	不変	悪化
2	7	6

## 【経営上の問題点】

各事業所が抱える経営上の問題点としては、総じて、少子高齢化・若年層の流出による「需要の停滞」に不安を感じている事業所が多く、次いで「仕入単価の上昇」、「税負担の増加」に懸念を示している事業所が多かった。その中で「需要の停滞や店舗・設備等の老朽化については、補助金等を活用して対策を練っていききたい」といった声が多く寄せられた。

